

GIGA 端末活用実践事例

宇都宮大学共同教育学部附属中学校：指導者：牧野 高明

教科・領域等	学年	単元名・題材名等
国語	3	条件スピーチ ～附属中を紹介しよう～

1. GIGA 端末活用のポイント

(1) 本時の目標

場面に応じた効果的な情報の扱い方について理解を深めることができる。

(2) 活用アプリ

ロイロノート（共有ノート，動画編集機能）

(3) GIGA 端末以外で利用した機器

なし

(4) アプリの活用場面と目的

オンライン オフライン

授業での活用場面（授業概要）

本時は、場面に合った動画を作成するために、複数の生徒のインタビュー映像の中から必要な情報を取り出し、活用する活動を通して、生徒が場面に応じて効果的に情報を扱うための観点を整理する授業である。

「選択する」、「並べ替える」、「つなげる」などの情報の操作を可視化することで、「操作的な見方・考え方」の自覚を効果的に促すことをねらい、ロイロノートの動画編集機能を活用させ、複数のインタビュー映像の中から場面に合った部分を取り出し、前後の情報とのつながりを考えながら配列させる活動を設けた。

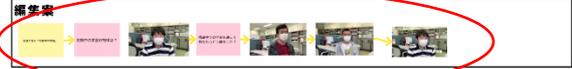
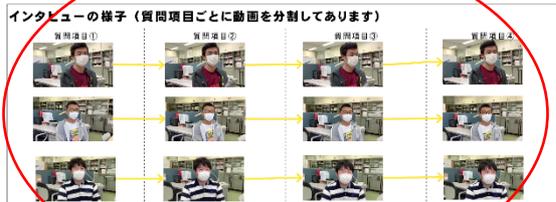
2. GIGA 端末活用の画面例（写真等）

取捨選択 配列
具体と抽象のバランス

情報の操作

「選択する」「並べ替える」「つなげる」

牧野先生からのお願い
本時におこなったインタビューの様子を組み合わせて、授業で活用する動画を制作することになりました。どのように編集すれば、よりよい動画に仕上がりますか？



インタビュー映像を質問項目ごとに分割

3. 効果と課題

(1) GIGA 端末 (アプリ) を活用して効果的だった点

一斉学習	<input type="checkbox"/>	教師による教材の提示				
個別学習	<input type="checkbox"/>	個に応じた学習	<input type="checkbox"/>	調査活動	<input checked="" type="checkbox"/>	思考を深める学習
	<input type="checkbox"/>	表現・制作	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	
協働学習	<input type="checkbox"/>	発表や話し合い	<input checked="" type="checkbox"/>	協働での意見整理	<input type="checkbox"/>	協働制作
	<input type="checkbox"/>	学校間の交流	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	

ロイロノート上で情報を可視化し、インタビュー映像を実際に切ったり、つないだり、順番を変えたりするという「体験」をさせることで、生徒は「情報の取捨選択」、「情報の具体と抽象のバランス」、「情報の配列」などの「場面に応じた効果的な情報の扱い方」についてよりよく理解を深めることができた。

また共有ノートを使用し、協働的に情報の操作をさせることで、「どの情報をどれくらい使うべきか」、「情報をどの順番でつなげると効果的か」などについてグループ内で活発に話し合い、考えを広げたり深めたりする生徒の姿が見られた。

(2) GIGA 端末 (アプリ) を活用して課題に感じた点

一斉学習	<input type="checkbox"/>	教師による教材の提示				
個別学習	<input type="checkbox"/>	個に応じた学習	<input type="checkbox"/>	調査活動	<input type="checkbox"/>	思考を深める学習
	<input type="checkbox"/>	表現・制作	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	
協働学習	<input type="checkbox"/>	発表や話し合い	<input checked="" type="checkbox"/>	協働での意見整理	<input type="checkbox"/>	協働制作
	<input type="checkbox"/>	学校間の交流	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	

情報の操作を可視化することで対話の活性化をねらったが、最初に本時を行ったクラスで一人一台端末を用いて活動をさせると、生徒それぞれが情報を操作する「作業」に夢中になってしまい、活発な話し合いに繋がらなかった。

そのため、次クラスからは各グループで、情報の操作用端末1台、メモ用端末1台の計2台と使用する端末の数を限定した。端末を限定したことによって、積極的に意見を交換する生徒の姿が見られるようになった。